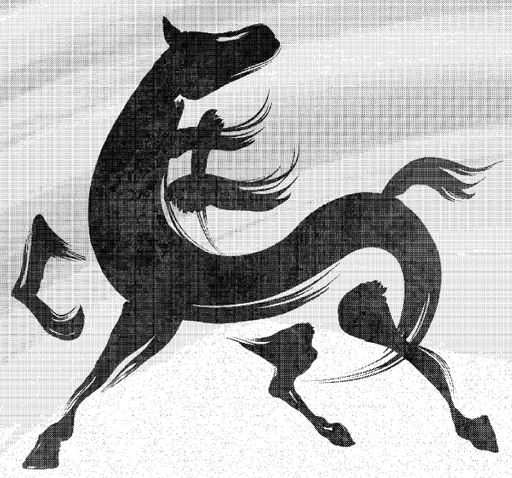
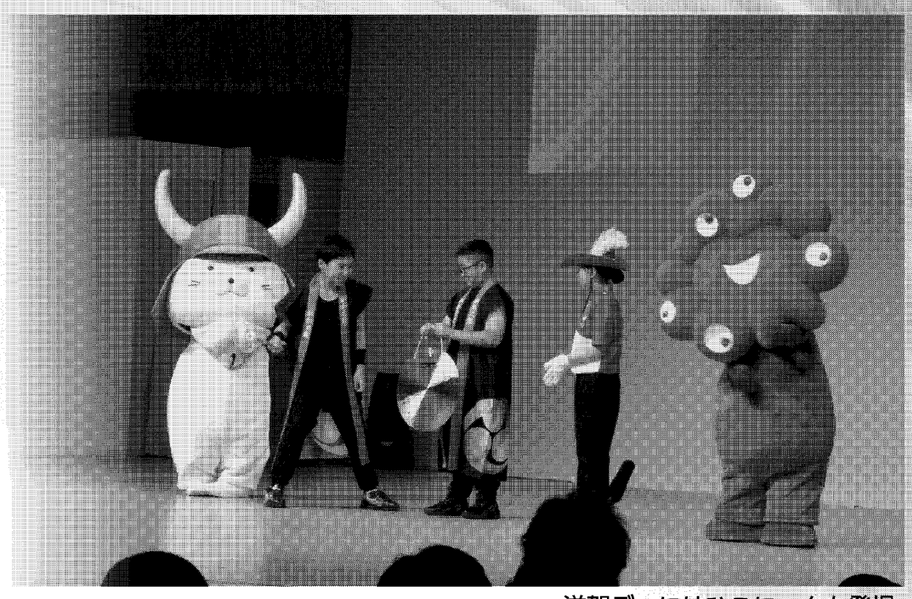
京都らしさ満載、大阪・関西万博の京都デー

成長に向けた明日への一手

京滋の有力企業トップインタビュー





滋賀デーにはひこにゃんも登場

地政学リスクを踏まえた経営判断がますます重要になることを示すような出来事が相次ぐ中で始まった2026年。今年の干支「丙午（ひのえうま）」は情熱や活力、変革といった言葉をイメージするが、世界や日本を取り巻く情勢をみると昨年に増して物々しい雰囲気が感じられる。

そういった中ではあるものの、進取の精神を持つ京滋企業を巡ると、国が打ち出す成長政策に期待を寄せる声をはじめ、年始から明るい声が数多く聞かれた。同じ業種であっても好不調が分かれる時代ではあるものの、一歩も二歩も先を見据えて先手を打つことに余念がない。

最先端技術が披露された昨年の大阪・関西万博でも目の当たりにした時代の変化を契機とし、世界に示したポテンシャルをさらに高め、日本のけん引役となることが京滋地域には求められている。注目の京滋企業トップに、明日への一手を語ってもらった。

2026 京滋の有力企業20（トウエンティー）

中嶋金属社長　中嶋 哲也氏

水素・脱炭素需要取り込み

めっき技術でレアメタル回収

―分析装置や医療機器、半導体、電池、航空機など向けにめっき加工を展開します。

「当社はあらゆる業界の顧客にめっき加工を展開しているが、総じてどの業界向けも2025年の売上高は前年比で微増だった。先行き不透明な世界情勢や材料費の高騰など前例のない事態が起きており、当社が置かれる事業環境が良いのか悪いのか判断が難しい。26年については水素・脱炭素関連や電気自動車（EV）向けが、欧州向けで25年に引き続き伸びる見通しだ」

―地政学リスクの高まりへの対応策は。

「レアメタル（希少金属）の自国生産に向けた動きが日本でも起こると考えており、当社もめっき技術を生かして貢献できないか模索している。当社はレアメタルのめっき加工も得意で、溶液からレアメタルを取り出すのにめっき技術が生かせると想定している。現在は試作段階だ。中国産レアメタルよりコスト高になるが、為替の円安が進んでいるため、ビジネスとして成立するかもしれない」

―成長戦略は。

「水素・脱炭素関連など成長分野を取り込むため、生産能力の強化を図る。ここ数年、年率20％以上のペースで生産能力を引き上げており、26年も継続する。顧客ニーズが多様なため、独自にカスタマイズした設備を増やす。開発面では新技術確保のため、あらゆる業界での顧客ニーズ対応を継続する。全業界で技術革新の波が一斉に来るわけではない。自動車向けに開発しためっき技術が数年後に半導体向けで生きるかも知れない」

大阪ウェルディング工業社長　魚谷 徹生氏

溶射需要ますます増加

ＡＩと機械融合・省人化で

―産業機械向け部品の耐摩耗・耐腐食・耐熱性を高める溶射加工を手がけています。

「少量多品種生産で年間件数は約6000件以上。足元で飛び抜けて好調というジャンルはないものの、どの業界からも受注を獲得しており、この流れは2026年も続くとみる。ＡＩ（人工知能）と産業機械の融合や、人口減などで自動化・省人化が加速する中、部品を長寿命化し、機能も高める溶射の需要はますます増える見通し。業界全体のキャパシティーが足らないという見方もある。2025年はエネルギーや部品・部材、消耗品などの値上げに対して価格転嫁が追いつかず、厳しい状況にあったが、年の半ばからの交渉や見直しで、顧客の理解も得て価格適正化に取り組み、改善を進めた」

―海外事業の状況は。

「成長著しく、若者も多いインドは魅力的。インド工場ではアルミダイカストマシン向け部品を手がけているが、どんどん伸びる印象だ。自動車向けのアルミは、クルマの電動化でエンジン向けが減るとされているものの、モーターや車載機器の保護用途などで新しいアルミの需要もあり、長寿命なアルミダイカストマシン向け部品のニーズも増えていくと予想している」

―中国は2工場あります。

「上海近郊の工場が昨今、厳しかったものの、昨年半ばまでの改善活動と経営体制の見直しで安定し、利益体質に改革して余力もできた。山東省の工場も移転増強しており、さらなる成長に向けて、これまで以上にグローバルで受注活動に取り組んでいく」

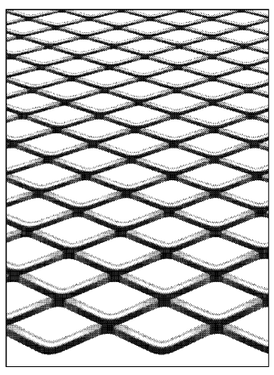
水素関連機器からカーボンニュートラル・脱炭素へ

最先端の金・白金メッキ技術でお応えします

金・白金・チタンへのメッキ技術

独自開発　ピンホールレスメッキ（微細孔）

耐酸化性や耐食性、耐熱性に優れ電子機器接点や電極、半導体製品など幅広く利用されています。



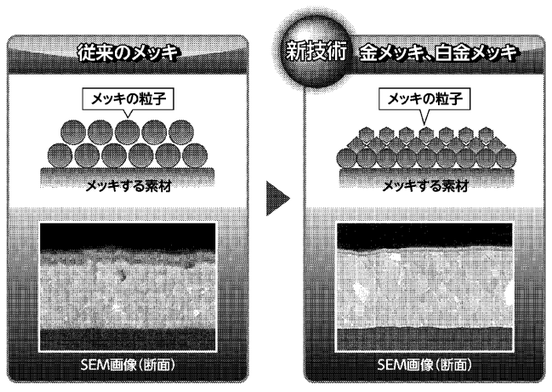
●チタン上に高密着の白金メッキが可能
●耐酸化・耐食性、耐熱性に優れています

主な用途
・電子機器接点
・電極用チタン白金電極
・テストプローブ
・端子
・装飾品
・機械部品
・センサー部品
・コネクター

燃料電池電極へのメッキ技術

(Gold/Platinum Plated fuel cell electrode)

直径2ナノ（従来の10分の1）の金属粒子を作ることに成功!



従来にないメッキプロセス

金メッキ20μm：平滑度0.7nm
厚メッキ仕様で高光沢を実現

・経済産業省　「関西ものづくり新撰」認定
・経済産業省　「関西ベンチャー企業」認定
・京　都　府　「京都中小企業技術大賞」受賞
・内閣総理大臣表彰　「ものづくり日本大賞優秀賞」受賞

中嶋金属 株式会社
〒615-0052　京都市右京区西院清水町4　TEL:075-311-4267　FAX:075-311-3356
https://www.nakajimakinzoku.co.jp/

日本国内のコスト高に対応!!
産業機械の寿命延伸
耐摩耗・耐食・耐熱・部品受注生産

グローバル（中国・インド・日本）で納期、価格、数量に応じ適材適所で製作

問い合わせ TEL.0748-62-3771～2　E-mail：sakakibara@osakawel.co.jp

溶射部品を主にその他の部品製作も相談に応じます

海外生産でコストダウン対応可能な理由
●溶射材料が安い ●鋼材が安い ●人件費が安い
※日本製鋼材が必須ならば日本から輸出対応

平均納期 2か月
問題発生時は、日本の大阪ウェルディング工業が対応させていただきます

お客様から持ち込まれる摩耗部品の長寿命化（現場思想型開発）

2024 健康経営優良法人 Health and productivity
地域未来牽引企業

創業64年
年間実績6,000種以上

大阪ウェルディング工業株式会社
本　社　〒567-0001　大阪府茨木市安威2−20−11
関東工場　〒332-0003　埼玉県川口市東領家5−6−6
滋賀工場　〒528-0052　滋賀県甲賀市水口町宇川1426−10(宇川工業団地)
TEL.0748-62-3771～2　FAX.0748−62-8417
https://www.osakawel.co.jp

東営田島金属表面改質有限公司（独資工場）
中国山東省営市東営経済開発区東七路東運河路南
TEL.001-010-86-546-7760607　FAX.001-010-86-546-7760608

田島威尔登机械科技（江蘇）有限公司（独資工場）
Tiandao Weierdeng Machinerry
中国江蘇省常熟市虞山高新技術産業園陽光大道55号
Changshu High Tech Jndustrial Park No.55
Yangguang Road, Changshu, Jiangsu, China.

レーマンテクノロジーインディア（合弁）インド
代表取締役 マニガンダン

2026 京滋の有力企業20（トウエンティー）

株式会社 ニューリー・土山
本社
〒528-0211 滋賀県甲賀市土山町北土山979
TEL：0748-66-1681 FAX：0748-66-0915

基板検査 リピート注文増

ニューリー・土山社長　野口 雅人氏

―電子部品実装基板の検査機や治具を手がけています。足元の状況は。

「米国の関税政策など、外部環境はそれほど良くなかったが、2025年9月期の業績は非常に良かった。車載やスマートフォン向けは例年通り堅調で、事務機器や電子機器製造受託サービス（EMS）など向けが好調だった。これまでの着実な納品実績が評価され、既存顧客から治具のリピート注文が増えている。競合の中小企業が事業承継せずに廃業し、当社に注文が来るケースも出始めている」

―22年から滋賀県周辺の企業向けに「お困りごと解決事業」を展開しています。

「基板検査には安全性や効率化などに関する多くの工夫が詰め込まれており、基板検査で培った知見を地域企業に還元しようと、事業を始めた。地域企業の困りごとを効率化・自動化設備で解決する。徐々に結果が出ており、案件数が増えている。今後数年で、当社の柱になるよう育てていきたい」

―人材育成の方針は。

「社員教育を充実させている。階層別研修に加え、組織の体力を底上げするため、経理やビジネスマナーといったポータブルスキルの向上にも注力している。社員教育の充実は、当社が永続するための一つの手段だと考えている」

―労働人口が減少する中、業務効率化も重要です。

「AI（人工知能）の利用を検討している。東京大学発のスタートアップと協業して当社の業務の中身を精査・分解し、AIで効率化できるところがないか模索している」

社員教育を拡充

電池の薄物搬送に期待

NKE社長　中村 道一氏

―自動車業界をはじめ、多様な工場向けの自動化機器、搬送設備を展開しています。2026年の見通しは。

「米国の新政権発足や関税政策などで25年は年初から事業環境が良くなかったものの、25年11月ごろから受注が戻ってきた。自動車業界は様子見や先送りの状況から抜け出し、止まっていたエンジン車関連も急ブレーキがかかった電気自動車（EV）向け電池関連の投資も動き出した。この流れでしばらくは安定推移し、厳しかった25年と比べて26年は良くなるとみている」

―自動車以外の状況は。

「物流量増加や人手不足で自動化投資が増え、コンベヤーや段積み・段ばらし機、無人搬送車（AGV）など、物流関係の引き合いが増えた。当社が不得手な大型品や大型ワークの物流を得意とする企業と協業して受注対応し、顧客ニーズに応える幅を広げる。当社のコンベヤーと協業先の伸縮コンベヤーを組み合わせ、荷物を倉庫や工場からトラックの荷室の中までダイレクトに運び、荷役を軽減して荷室を最大限活用するコンベヤーラインの提案も始めた」

―注力ポイントと課題は。

「期待は次世代電池向け薄物搬送。低露点環境の再現設備を本社工場（京都市伏見区）に整え、自動化機器の部材テストを始めた。一方、懸念は日中関係。11月ごろから磁石を使った単純な部品が調達しづらくなった。今年の干支は丙午（ひのえうま）。こういう時こそ基本に立ち返り、本質を貫き、人のための自動化機器というものを真剣に考え、価値を提供していきたい」

低露点での部材テスト開始

工作機械の製品拡充

山科精器社長　大日 陽一郎氏

―工作機械や熱交換器を手がけています。事業環境は。

「受注や売上高が増えているにもかかわらず、思ったほど利益を伸ばせていないのが全社的な動向だ。インフレやコスト増の影響を受けており、増収減益傾向にある」

―顧客ニーズに合わせて設計した、専用工作機械を得意としています。

「人手不足を背景に需要が増えており、今後も楽しみだ。標準化した自社製品にも力を入れており、段ボール開梱機やバターカッター『バタスラ』の引き合いが多い。バタスラは開発にあたり、当社で初めてプロダクトデザイナーに参画してもらった製品。おしゃれでユーザーフレンドリーな使いやすさを実現した」

―熱交換器の事業戦略は。

「日本の造船業再興に向けた機運が高まっており、当社の熱交換器の売上げも伸びている。ただ造船業界の人手不足を背景に、想定よりは伸びていない。船舶関連ではグリーン燃料への転換も進んでおり、当社でも次世代燃料のアンモニアに対応した熱交換器を開発した。エンジンメーカーの試作品に当社製熱交換器を提供済みで、量産品へ採用してもらえるよう進めていく。核融合炉向けでも、熱交換器の技術を生かして貢献したいと考えており、情報収集を進めている」

―メディカル事業の成長戦略は。

「これまで医工連携を軸に事業展開してきたが、売り上げ拡大に時間がかかる。魅力的なスタートアップが増えているため、出資や共同開発にも力を入れている」

造船業再興 追い風

工場・現場作業用ドラムポンプ品揃え No.1 ※当社調べ

AQUA SYSTEM CO.,LTD.

液体移送の悩みを解決する ポンプ・エア機器シリーズ

灯油・軽油用
エア式ドラムポンプ
APDシリーズ
モーターを使用しない 静音タイプ

切削液の循環ろ過専用
APDQO-Fシリーズ
J-Fシリーズ

切粉・液体回収用
APPQO600シリーズ
エア式バキュームクリーナー

酸・アルカリ溶剤用
エア式・電動式
ケミカルドラムポンプ
CHD1-20SUS316シリーズ

液体管理用
センサ式液面計
エア式液面計
レーザー式液面計

灯油・軽油用
電動式ドラムポンプ
TDP1シリーズ

おかげさまで 70th ANNIVERSARY

アクアシステム株式会社
〒522-0081 滋賀県彦根市京町1丁目3番1号K1ビル2階
TEL：0749-23-9123
FAX：0749-23-9122
mail：aqua@aqsys.co.jp

顧客の新しい発想促す

迅速に最適解導き受注獲得

アクアシステム社長　木村 匡伸氏

―ドラム缶用などのポンプに加え、周辺機器やポンプ制御へと業容を広げています。

「ポンプは自動車関連の作業現場向けなどに加え、薬剤や溶剤、半導体関連などの市場開拓に注力している。また、当社の強みの小型化や使い勝手の良さなどの付加価値を盛り込んだ上で、購入しやすい価格帯で導入ハードルを下げ、顧客の新しい発想を促す液面計シリーズも展開。このほか、営業事務の商品知識を高めるなどでインサイドセールスを強化している。顧客の困り事を具現化してフィールドセールスにつなげる組織体制にし、迅速に最適解を導き出すことで、大手企業から液体供給システムの受注を獲得するなどの実績もできた」

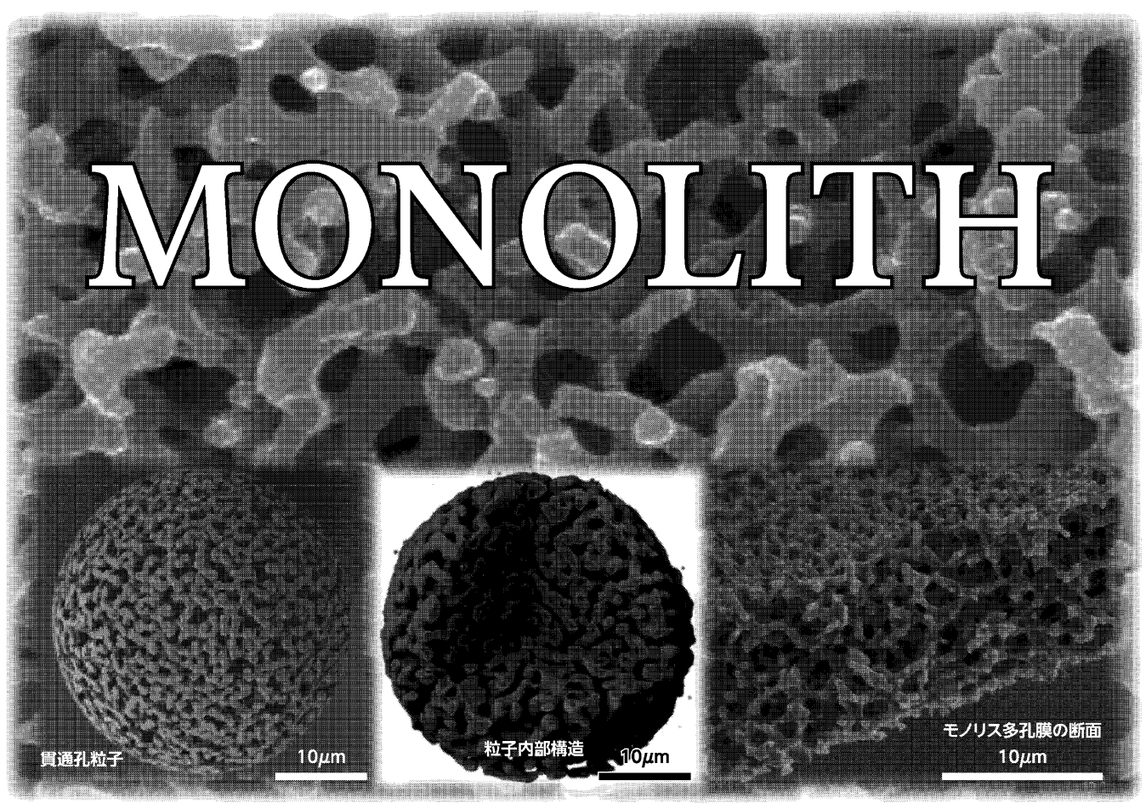
―2026年の見通しは。

「人手不足などの課題は当社にとっても言えるが、自分たちのビジネスモデルやブランディング、PRを通じて解消につなげる。人材の流動性は必ずしも悪とは捉えておらず、人が出入りすることで企業は呼吸する。レベルをより上げるべく、スキルアップを図っていく。2月に新基幹システムの運用を始める。営業、製造、技術の重複作業を無くすなどで、業務を効率化して労働生産性を向上。一定基準に達すれば、年間休日を増やすなど、ウェルビーイング経営を推進していく方針だ」

―中長期の目標は。

「今はポンプや周辺機器を中心とするが、将来は液体移送のプラットフォーム企業となり液体移送で困ったときにまず相談される存在が目標。（本社がある）彦根を大事にし地域貢献にも力を入れる」

MONOLITH



MONOLITH（モノリス）は貫通した均一な細孔と骨格材が絡み合った共連続構造を持つ一体型の多孔材料で、
エマオス京都はモノリスの粒子化、薄膜化ができる独自技術を有しています。
このような技術を応用し、従来の多孔体では困難だったバイオ医薬品精製に最適なクロマトグラフィーカラムや、
フロー合成リアクターなどへの応用開発を行っています。

Emaus KYOTO 株式会社エマオス京都

〒615-0055　京都市右京区西院西田町26　TEL.075-323-6113　FAX.075-323-6115　http://www.emaus-kyoto.com

新規材料、確実に伸びる

海外展開にも注力

エマオス京都社長　石塚 紀生氏

―多孔性粒子をカラム充填剤とした従来のクロマトグラフ用より、大きな細孔が連続的につながった貫通孔を有する新規材料「高分子多孔体（モノリス）」を手がけます。

「ここ数年はバイオ医薬品向けの分析・精製需要が伸びている。日本は世界に比べて市場がまだ小さいが、今後確実に伸びる。バイオ医薬品は有効成分がたんぱく質である医薬品ほか、分子構造やサイズが大きい化合物。がんや血液疾患などで効果的な治療が期待されている。モノリスの特徴は、バイオ医薬品の分離・精製に最適な構造体として期待され、バイオ医薬品とは無関係だった大手企業もモノリス材料に注目して、当社への開発委託が増えている」

―さらなる高速・高性能分離を狙い、膜クロマトグラフ用のモノリス膜も開発しています。

「国の『成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）』で取り組む事業で、2025年度が最終年度。京都大学化学研究所（京都府宇治市）との産学連携で開発した。当初は10㌢㍍角ほどのラボレベルサイズだったが、25年度にはA4サイズ大にできた。量産開発のめどがつき、サンプルを使用してもらいながら、上市を目指す」

―今後の成長戦略は。

「海外のバイオ医薬品市場は大きく、年平均成長率が約10%。そのため海外展開にも注力したい。粒子化したモノリスは協力会社から製造販売されており、顧客からは好評だ。近い将来は膜クロマトグラフ用のモノリス膜も市場投入していきたい」

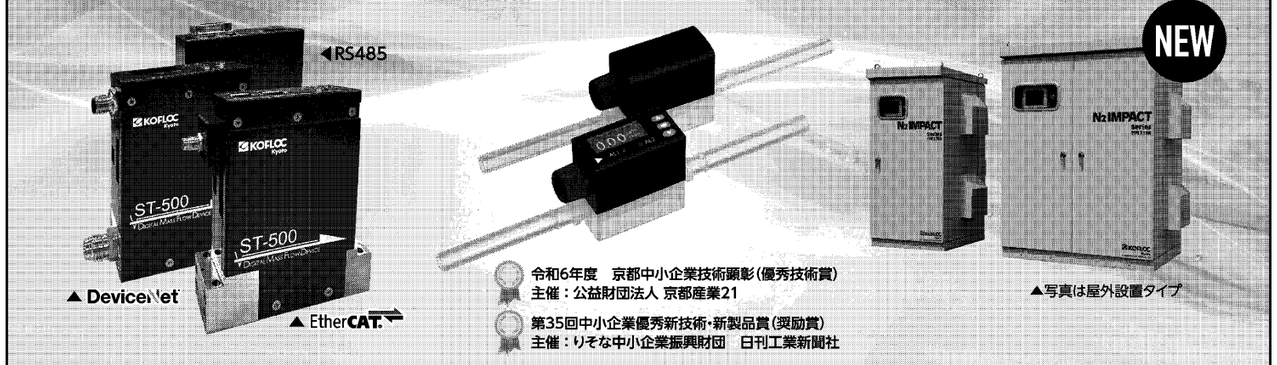
KOFLOC Kyoto

流体計測・制御・発生技術のコフロック

PIマスフローコントローラ
MODEL ST-500 SERIES

温度補正付小型カルマン渦流量計
MODEL FML-300 SERIES

屋内/屋外対応 窒素ガス発生装置
N2 IMPACT II SERIES



令和6年度　京都中小企業技術顕彰（優秀技術賞）
主催：公益財団法人 京都産業21
第35回中小企業優秀新技術・新製品賞（奨励賞）
主催：りそな中小企業振興財団　日刊工業新聞社

圧力変動に対し安定した流量制御が可能なマスフローコントローラ
■PI…Pressure Insensitive（ST-500のみ）圧力変動に対し安定した流量制御
■ダイヤフラム式バルブ採用のメタルシールMFCで、EP処理及び酸化被膜処理により腐蝕性流体に対応
■DeviceNet®、EtherCAT®、RS485通信（ST-550のみ）
■ガスパネルマウント、Wシール/Cシール継手対応
■S.P.精度、全流量制御応答1sec以内
■専用アプリによるマルチレンジ機能（30～100%F.S.）

温度センサ搭載により、液温変化時にも高精度な計測可能
■温度補正により液温変化による精度誤差軽減
■接液部NewPFAのみのオーリングレス設計薬液や純水にも対応
■0.3～250L/minまでの幅広い流量に対応
■流量出力のほかに温度出力と警報出力あり
■RS485通信対応
■コンパクト設計で装置の小型化にも貢献
■IP65相当の防水性

オイルフリーコンプレッサ内蔵で、クリーンな窒素を供給
■屋外設置タイプが新たに追加！工場スペースの有効活用に貢献
・IPX3相当の防滴仕様
・屋外40℃条件下で運転可能
・冬場の凍結防止用ヒーター搭載
・4点アイボルト付
■ECOモード搭載　最大49%電力削減
■外部エア供給機能搭載　緊急時バックアップAIRで運転可能

コフロック株式会社
https://www.kofloc.co.jp
本社・京田辺工場　〒610-0311　京都府京田辺市草内当ノ木1−3　TEL:0774-62-4411　FAX:0774-63-5041
八幡オフィス・工場　〒614-8184　京都府八幡市上津屋八丁25　TEL:075-983-3500　FAX:075-983-3501
東京メインオフィス　〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町3−3−6 人形町ファーストビル1F　TEL:03-3664-0200　FAX:03-3664-0210
名古屋オフィス　〒450-0002　名古屋市中村区名駅5−16−17 花車ビル南館8F　TEL:052-583-0411　FAX:052-569-1286
大阪オフィス　〒564-0063　大阪府吹田市江坂町1−23−20 TEK第2ビル8F　TEL:06-4861-4441　FAX:06-4861-4455
九州出張所　〒839-0812　福岡県久留米市山川安居野3−12−7 オフィスパルアク留米I B−1　TEL:0942-41-0088　FAX:075-983-3501

今年は地盤固める年

業界深耕、意識・行動改革進める

コフロック社長　小島 望氏

―半導体製造装置や半導体製造の付帯装置、分析機向けなどに展開する流体計測制御機器の足元の状況と展望は。

「昨年の半導体業界は動きがある企業とそうでない企業、円安の恩恵を受けるところ、中国事業で苦戦するところなど、まだら模様だった。2026年も堅調は堅調で、右肩上がりのトレンドは続くと思うが、爆発的に上向くということはないのかなと感じる。その中で当社は付帯設備向けを中心とするが、新規で取り組む製造装置向けで少しずつ実績がついてきたので、さらに攻勢を強めていく」

―窒素や酸素などのガス発生装置は。

「事業規模として一段高いステージに上がり、顧客ニーズを製品がしっかり捉えている。持続可能な開発目標（SDGs）や脱炭素といった観点に加え、エネルギー価格や物流費が上昇する中でコストを抑えたいというニーズも高い。装置のメンテナンスサービスも戦略的に強化しており、新たな柱となりつつある」

―26年の重点施策は。

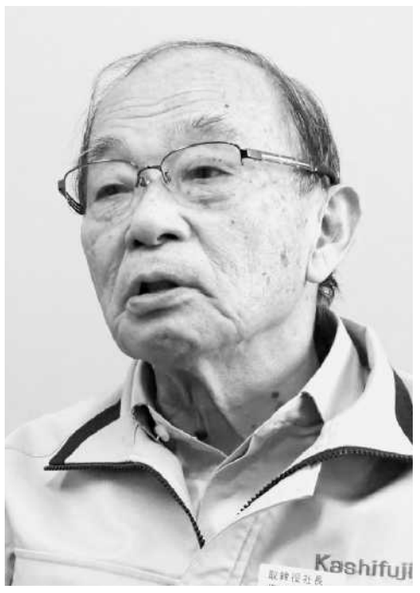
「営業、生産、開発のいずれも地盤を固める年にしたい。流体計測制御機器の営業は業界深耕がテーマ。25年に露呈した不足点を克服すべく、顧客や顧客製品の動向を深く知り、意識改革と行動改革を進める。生産はスループット改善。このほか、デジタル変革（DX）で間接業務をいかに減らし、直接業務に取り組むかで、従来の発想や考え方に疑問符をつけていく。開発は限られたリソースで根本を仕上げていくほか、人材確保やアライアンスに注力する」

京滋の有力企業20（トウエンティー）
2026

京滋の有力企業20 2026（トウエンティーワン）

一品一様で現場力強み

カシフジ社長　**樫藤 達郎氏**



―ギア製造に使うホブ盤などを手がけています。足元の経営環境は。

「国内は更新などが多く、新規プロジェクトは少ないと感じている。当社は自動車業界向けが主力だが、ここ数年でEV（電気自動車）化の流れからHV（ハイブリッド車）優位の流れに切り替わるなどで、今後の見通しが難しくなってきた。一方で、中国では人型ロボットへの関心が高まり、それ向けの減速機などの増加から小型の歯車の需要が伸び、ホブ盤などの販売も増えている。2025年は人型ロボット量産元年と言われていたので、流れに乗ることができた」

―需要が増えている人型ロボットの減速機向け歯車などの部品に対応する施策は。

「減速機などに使う小型歯車向けに、当社の強みである、高精度を維持しつつ、従来品よりも小さいワークを対象とした小型の装置を開発した。現在は国内のユーザーに装置を使ってもらっており、ブラッシュアップも順次進める。並行して中国での販売に向け、営業活動も開始した」

―生産性を向上させるための取り組みは。

「当社は一品一様で製造しており、現場力が強み。臨機応変に対応できる能力を付けてもらうため、多能工化を進めている。これが功を奏し、工期短縮にも対応できるようになった。現本社工場（京都市南区）は古くなってきており、今後は順番に工場の建て替えが必要だ。設備を組み立てる場所を広げるなどして生産量を増やし、生産性も高める環境にしていきたい」

臨機応変に対応、多能工化推進

回せ、時代を。
動かせ、世界を。

Kashifuji
Since 1913

環境と人への優しさ
株式会社カシフジ
本社・工場 〒601-8131 京都市南区上鳥羽鴨田町6番地
営業部 TEL(075)661-5271 FAX(075)661-5270
https://www.kashifuji.co.jp

製本の多様な需要に対応

ホリゾン社長　**堀 英陽氏**

―製本業界の多様な需要にどう応えるため、M&A（合併・買収）を実施。海外企業と代理店契約も締結しました。

「印刷・出版・製本市場向けの搬送システムなどを手がける富士油圧精機（前橋市）を完全子会社化した。印刷後加工のソリューション提案やカスタマイズの対応などが強化できる。糸かがり製本システムを手がける米国スマイス（滋賀県高島市）で展示会を開催します。

「国内外の顧客向けに2年に1回開催する展示会。24年は海外25カ国以上から約400人が、国内からは約990人の来場があった。今回はAGV（無人搬送車）やロボットなどを駆使し、さらにブラッシュアップした製本工程の無人システムをアピールする。26年度後半に展示会での成果が得られるよう、準備に力を入れる」

―AI（人工知能）を使った顧客サポートの効率化にも取り組んでいます。

「国内外でサービスエンジニアが製本機の故障理由などを検索するとAIが当社のアフターサービスに関する情報を検索し、原因や修理方法をサポートしてくれるシステムの運用を始めた。効率的なアフターサービスができるよう精度を高めていく」

M&Aでシステム強化

Horizon
おかげさまで、株式会社ホリゾンは創業80周年を迎えました

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp
本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03-3863-5361(代) FAX.03-3863-5360
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03-3652-7631(代) FAX.03-3652-8083
京都支社 〒601-8206 京都府京都市南区久世大藪町510 TEL.075-933-3060(代) FAX.075-933-4025
福岡営業所 〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092-626-8111(代) FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター 〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31 TEL.022-782-2821(代) FAX.022-782-3068

大型部品を一貫加工

桶谷製作所社長　**桶谷 正躬氏**

―製造装置のベースプレートなど大型の製缶加工や機械加工を得意としています。

「機械加工や製缶加工、表面処理まで一貫生産できる点が強み。4工場に10台の大型機械を持ち、従業員は120人ほど在籍する。大物を精度高く加工できるだけでなく、数量の多い仕事もきっちりこなせる。近年は機械加工から派生し、装置の組み立てにも事業領域を広げている。多種多様なモノづくりができることから、顧客は零細企業から大手企業まで、約2500社に広がっている」

―事業環境への認識や、今後の目標を教えてください。

「製造業は2025年は低調だったが、26年は少し上向く。現在の当社の売上高は約35億円だが、将来は100億円企業を目指している」

―売上高100億円の実現に向けた成長戦略は。

「当社はモノづくりは得意だが、仕事を獲得する営業力が弱いため、商社との関係を強化する。また現在は大手メーカーの2次・3次下請けの立場だが、直接の取引もしていきたい。大手メーカーが求める品質やコスト、納期に応えられるよう、当社全体を高度化していく」

―成長を実現するための人材採用や育成への考え方は。

「会社の新陳代謝のため、人材採用を継続している。今いる社員となじみ、協力できる人材を求めている。当社の社員や採用面接に来た人には、会社のためでなく自身の将来のために仕事をしてほしいことや、ビジネスの方法・技術などを学ぶための舞台は提供することを伝えている」

100億円企業目指す

桶谷は大型機械部品の製造から脱皮し、
製造装置の組立・設置メーカーとして成長してまいります。

高品質 短納期 低価格 を保証

製造設備技術の総合商社
株式会社桶谷製作所
本社 〒601-8203 京都市南区久世築山町376-7 TEL 075-922-9409
URL:https://www.e-oketani.co.jp/ E-MAIL:oketani@e-oketani.co.jp
桶谷製作所 検索
関東事業所、東海事業所、九州営業所、大阪事業所、韓国営業所、久世工場、久御山工場、伏見工場、上鳥羽工場

炎人技 -限りない 未来を拓く-

近江鍛工株式会社は
リング鍛造のトップメーカーです

国内最強クラス15000tプレスで
他社には真似できない鍛造品を実現

外径 φ110mm ～ φ5200mm
柔軟なロット対応
1個から大ロットまで顧客ニーズに応える。

高さ 1600mm
一貫生産体制
鍛造、熱処理、機械加工、非破壊検査、材料試験まで一貫対応で高品質、コスト削減、納期短縮を実現。

重量 1kg ～ 25t
幅広い対応力
炭素鋼、合金鋼、ステンレス鋼などからアルミニウム、銅、チタンなど非鉄金属まで幅広く対応。

近江鍛工株式会社 https://www.omitanko.co.jp/
本社工場 〒520-2152 滋賀県大津市月輪1丁目4-6 TEL 077-545-3281 FAX 077-545-8802
信楽工場 / 長崎工場 / ロサンゼルス営業所
グループ会社
有限会社西原運輸興業
美喜製作株式会社 TEL 06-6496-6367 FAX 06-6496-6368
有限会社本庄鉄工所 TEL 03-3762-5731 FAX 03-3762-5731
ホームページ

グループの連携強化

近江鍛工社長 坂口 康嗣氏

―多様なサイズ・素材の鍛造リングを手がけ、自動車や新幹線、建機、船舶、エネルギーなど、幅広い市場に展開しています。市場環境は。

「全体的に冷え込みが続いている。中国の景気低迷で、好調だった大型ダンプトラック需要も鈍化。中国経済の冷え込みをきっかけに同国の鉄が海外に流出し、それに引っ張られて韓国内の競争が激化して、影響は日本にも伝搬している。また、建機業界では近年、日系企業が重要パーツから撤退し、風力発電も洋上風力が見通しにくい。2026年も厳しいと見ているが、グループ企業の連携強化などで売り上げアップを目指す」

―具体的には。

「昨年買収した機械加工メーカーの顧客は当社と重複しておらず、相乗効果が見込める。交流を深めてグループシナジーを創出し、当社の鍛造品の販売拡大にもつなげたい。国内外を問わず、M&A（合併・買収）なども通じた持続的な成長、体制整備は今後も強化していく。政府が掲げる造船業の再生の動きは、まだ見えない部分がある。造船業は自動車産業などと同じく裾野が広く、当社は川上に位置する。サプライチェーン全体での取り組みが重要だ」

―企業成長には人材の育成や確保も重要です。

「教育にかなり力を入れており、教育費は過去と比べて増えたが、社員の成長を日々感じている。外国人を現場だけでなく技術スタッフにも採用した。ただ、あらゆる費用が上がっており、今年は全社員でいま一度、コスト意識を持って取り組むようにする」

交流深めシナジー創出

京滋の有力企業20（トウエンティー）2026

誠実・丁寧なものづくり

宮木電機製作所社長 三橋 伸乃映氏

―2026年の見通しは。

「25年11月期は前期の配電盤受注の好調で過去に例のない受注残を抱えて始まり、主要パーツの先行手配や倉庫の計画的活用で着実な消化を図った。防爆カメラも好調に推移。売上高は計画値と前年実績を大きく上回った。ただ、物価高騰で利益面は課題を残した。26年11月期は前期より受注残が少なく、厳しい年度初め。原材料価格や国際情勢に留意し、デジタル変革（DX）による業務効率化や工場原価の精緻な把握で利益重視の経営を徹底して、着実な受注確保で業績伸長を目指す」

―各事業の成長施策は。

「配電盤は高圧配電盤の設備更新に加え、低圧盤関係の設備投資も期待したい。特に低圧コントロールセンターの受注拡大と既納盤の改造更新が成長のポイントだ。防爆機器は防爆カメラの受注が堅調で売り上げが前期を上回る見込みのほか、周辺機器メーカーと協力して販路拡大を図る。ソーラー関連は厳しく、新規の取り組みが喫緊の課題」

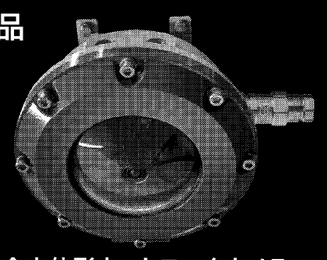
―25年4月の社長就任から1年近くが経過しました。

「改めて認識した当社の強みは、高い技術力と誠実なものづくりへの姿勢にある。一方、事業規模拡大や新規事業創出が継続課題。配電盤受注拡大に向けた工場拡張、新たな防爆製品の開発、ソーラー関連製品に続く新規事業参入を重点施策とし、中長期的な成長を実現する。創業者の言葉『製品は人格の片鱗を示すものなり』を重んじ、誠実かつ丁寧な顧客目線のものづくりで、品質と信頼を基盤とした企業価値の向上に努める」

品質・信頼で企業価値向上

変わらぬ製品に込めた想い・・ Since 1918

MIYAKI
ELECTRIC.MFG.CO.,LTD.
常に夢を追い続け、新しいモノを世に送り出し続ける技術開発型企業

新製品

全方位形ネットワークカメラ
NWEX-CM6H

株式会社 宮木電機製作所
本社 TEL：0771-24-7401
〒621-0013 京都府亀岡市大井町並河3-16-18
東部営業所 TEL：045-507-2270
〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央5-4-10 ベルス・ベイサイド502
名古屋営業所 TEL：052-241-8525
〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須4-9-79 大須TNビル6F-A
西部営業所 TEL：075-841-5321
〒604-8431 京都府京都市中京区西ノ京原町99
https://www.miyaki-elec.co.jp/

プラズマ装置 販売伸長

魁半導体社長 田口 貢士氏

―市場環境は。

「さまざまなところで半導体が伸びていると言われたが、それは人工知能（AI）関連で、それ以外はこれまで良くなかった。だが、これからスマートフォン業界向けなどがどんどん動き始める。すでに複数の案件が寄せられているが、当社は準備が整っており、製造設備向けのプラズマ処理装置の販売が伸びる。半導体分野向け以外でも、医療関連機器の生産ラインなどで複数のオファーがある。2026年7月期の黒字転換で前期の赤字分まで取り戻し、27年7月期に大きく飛躍する」

―部材の表面改質や親水・撥水化、洗浄などに使うプラズマ装置の製造販売に加え、レンタル事業も始めました。

「小型装置がすでにたくさん出ているほか、大型装置も複数案件が動いていて、高評価を得ている。顧客の初期コスト低減、試作、導入ハードルを下げる、装置受注につなげるなどの目的で始めたが、それだけでなく、プラズマ表面処理技術の共同開発をしたいというオファーも複数受けている。楽しみな案件がたくさんあり、今年は共同開発で複数の柱をつくっていきたい」

―営業体制の強化に取り組み、一定の成果を得ました。

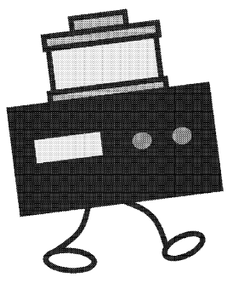
「25年は外部的にも内部的にもジャンプするための準備期間だった。営業部門で培った新人の垂直立ち上げのノウハウは、増員を考えているプロセス開発や技術開発にも横展開していく。海外では、台湾の半導体産業関連向けでの販売拡大に向けて複数社と協業し、海外では初めてとなる拠点設置も検討している」

表面処理技術の共同開発

NEW
Plasma Open Lab
最新のプラズマ技術で試行錯誤できる場を提供します

問い合わせ → 利用申請 → 来社

・開発スピード向上！
・購入、レンタル前の実証利用も！



詳しくはこちら

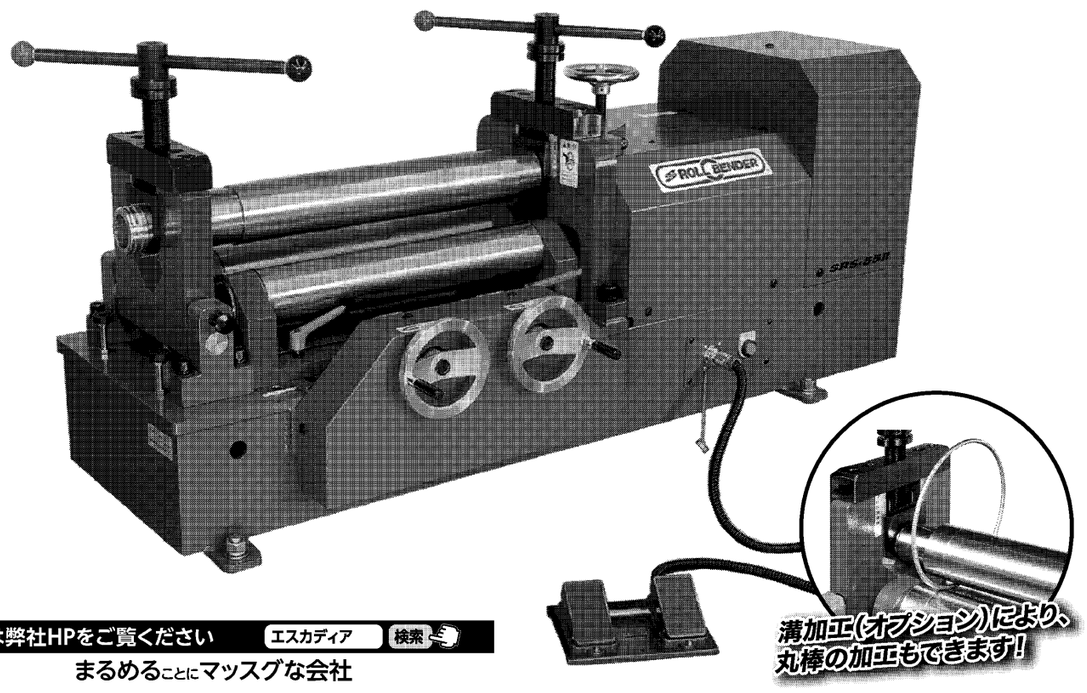
SAKIGAKE
株式会社 魁半導体
URL https://sakigakes.co.jp
京都府京都市下京区西七条御前田町50番地
TEL 075-204-9589 FAX 050-3488-5883

2026 京滋の有力企業20（トウエンティー）

ROLL BENDER 頼りになるロール加工の凄いヤツ!

鉄芯ロール 端曲げタイプ SRS-55Ⅱ

3本駆動で材料のスリップを防止、
SS材 6㎜端曲げ対応!!



詳しくは弊社HPをご覧ください エスカディア 検索
まるめることにマッスグな会社
株式会社 エスカディア
〒520-3306 滋賀県甲賀市甲南町柑子2002番地34 ☎ 0748(86)1666 FAX 0748(86)1661
URL https://www.scadia.jp

ROLL BENDER
RB事業部
●金属板金用ウレタンロールベンダー
ロールベンダーPAT. 製造販売
●ウレタン2本ロール ●ウレタン3本ロール ●その他ロール専用機設計製作

出展拡大で知名度向上

エスカディア社長　住谷 徳章氏

―金属板を円筒状に加工するロール成形機が主力です。

「主力製品『ロールベンダー』の売り上げが好調だ。昨年は関東、東海、関西、中四国、九州の展示会に出展した。今年は甲信越地方にも出展する予定で、『ロール成形機といえばエスカディア』と言ってもらえるように知名度の向上を図る。顧客ごとの要望に合わせた特別仕様機の引き合いも年々増えており、昨年末に機械設計担当を増員した。自動化設備や搬送装置など、ロール成形機以外の装置にも幅広く対応していく」

―受注加工事業の状況は。

「当社は切削から溶接、製缶、板金まで手がける『金属加工の総合デパート』。近年、中国や東南アジアの協力会社に加工を任す日本企業が増えているが、当社は価格だけでなく、密な打ち合わせや安心できるフォロー体制、安定品質といった強みを武器に顧客と信頼関係を築き、受注量を確保している。自社ブランド品の部品製作や組み立ての内製化実績も評価を頂いており、他社からの製品組み立て依頼も増加傾向にある」

―2026年はどのようなことにチャレンジしますか。

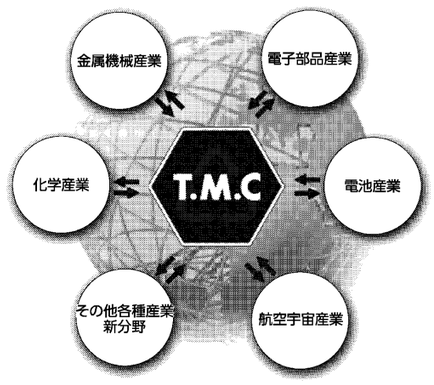
「中小受託取引適正化法の施行など、取り巻く環境の変化に合わせ社内のアップデートも日々行う必要がある。『客先が繁栄するものづくり＝自社の繁栄』を目指すべき姿とし、従業員一人ひとりが定めた目標にまい進できるよう会社としてバックアップする。個人の成長は会社の成長であり、会社の成長は従業員の豊かさにつながる。このことを胸に当社は挑戦を続ける」

企業成長、従業員の豊かさに

TOWN MINING CO.,LTD. ティーエムシー 株式会社
URL http://www.townmining.co.jp/

《 営業拠点 》
京 都 本 社 〒604-8153 京都府京都市中京区烏丸通四条上ル笋町691番地 りそな京都ビル10階 Tel:0748-62-3326 Fax:0748-62-3356

《 業務拠点 》
マザープラント 〒528-0061 滋賀県甲賀市水口町笹が丘1-58 Tel:0748-62-3326 Fax:0748-62-3356
信 楽 プラント 〒529-1803 滋賀県甲賀市信楽町牧1790番地 Tel:0748-60-7716
高 岡 プラント 〒933-0073 富山県高岡市荻布142-2 Tel:0766-29-0999 Fax:0766-29-0004
富 山 プラント 〒939-2223 富山県富山市笹津137-1 Tel:076-481-6133 Fax:076-481-6136
小矢部プラント 〒902-0821 富山県小矢部市鷲島1110番地 Tel:0766-50-9918



京滋エリアで資源循環形成

ティーエムシー社長　宮脇 大士氏

―レアメタルのスクラップをリサイクルし、再び原料に戻して供給しています。

「滋賀県に2拠点、富山県に3拠点、リサイクルプラントを保有している。大手製造業があり、スクラップの発生や素材も使用する産業が多い京都と、当社の滋賀のリサイクル拠点を組み合わせ、京滋エリア内で資源循環する『京滋クローズドループ』が形成できればと構想している。京都と滋賀は距離が近いなどの優位性もあり、物流負荷の低減にもつながる。京滋エリアの雇用促進にも貢献できると考えている」

―力を入れている分野は。

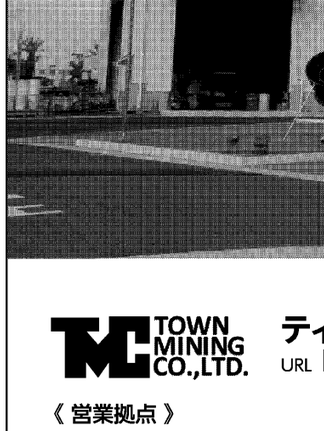
「主力はニッケルだが、リチウムのリサイクルにも力を入れている。リチウムイオン電池（Li-B）正極材の原料メーカーから発生するスクラップを中心にリサイクルし、陶器に使う釉薬（ゆうやく）の原料などとして、素材・材料メーカー向けに販売している。将来的には自動車業界に働きかけ、バッテリーの原料にも使われることを目指す。ただ、2026年はLi-Bの組成転換期にあるとみており、発生するスクラップ量も足元で減少傾向にある。次の時代への準備に向けて研究開発に注力する時期と捉えている」

―今後の成長戦略は。

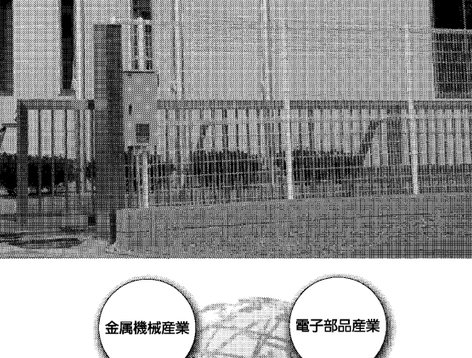
「時代にあったリサイクルを提供していく。当社は1986年に創業してからリサイクル技術を磨き、2026年は40年目。リチウムのリサイクルに関して、工業的に手がけている企業は国内ではほぼないと考えている。独自性のある事業に力を入れ、今後も成長していきたい」

物流負荷低減・雇用促進に貢献

ライフラインの安全性に貢献する



ＥＭ穿孔イメージ


米国でのエスゲート設置状況

台湾でのエスゲート設置状況

EM不断水バルブ工法 PAT.
エスゲート
EM 不断水バルブ工法は、 水道管の水を止めずにバルブを設置する工法です。
漏水時の修繕や、 管路の更新等で使用されています。

株式会社 水研
お問い合せ、カタログ請求は
本社〒529-1663滋賀県蒲生郡日野町北脇206-7 TEL(0748)53-8083
■URL www.suiken.jp ■E-mail otoiawase@suiken.jp

札幌営業所 TEL(011)642-4082 大 阪 支 店 TEL(072)677-3355
東北営業所 TEL(022)306-3166 中 国 支 店 TEL(082)262-6641
東 京 支 店 TEL(03)6914-5480 九 州 支 店 TEL(092)501-3631
名古屋支店 TEL(052)712-5222

水道管のバルブ製品好調

水研社長　佐藤 康成氏

―上下水道管路用の継ぎ手製品などを手がけ、現状は断水せずに既設管にバルブを設置できる、EM不断水バルブ工法を用いた「エスゲート」シリーズが主力製品です。

「エスゲートシリーズは水道管の維持管理や更新などで使用されるため、老朽化対応などで販売は好調だ。今後も水道管の更新は増えると考えており、需要が期待できる。特に都市部では既設の管路周辺にガス管などさまざまな干渉物があるため、省スペースでコンパクトに施工作業が行える当社の製品が活躍できる」

―1000㍉（ミリメートル）の大きな呼び径（水道管の口径）に対応する「エスゲートBVⅠ」を台湾で2025年に施工しました。

「小さい呼び径の海外販売はこれまでもあったが、大口径品の海外での施工は初めて。ここ5―6年で台湾やシンガポールなど海外からの引き合いも本格化している。技術開発を繰り返し、案件を増やしたい」

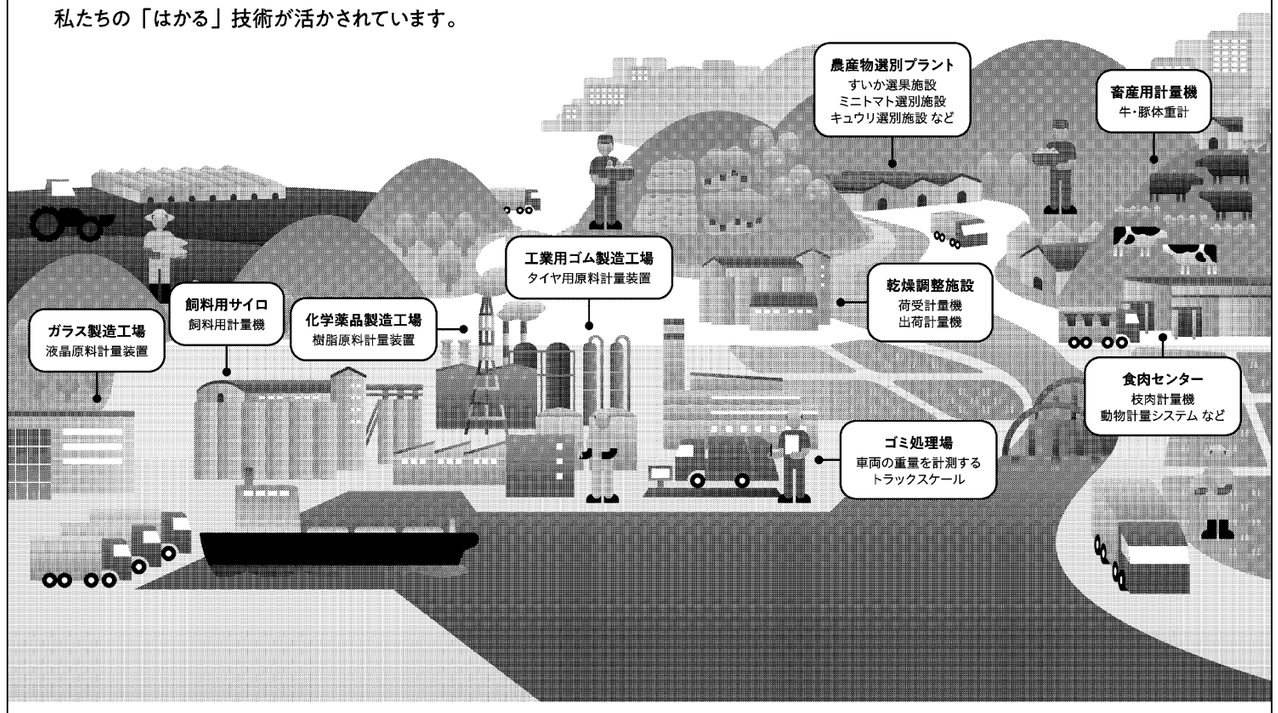
―今後の成長戦略は。

「国内は給水人口の減少や節水技術の向上で、公共事業として新設される配管は減っている。このため維持管理で増える需要や、公共事業以外にも販売を広げる狙いで、エスゲートシリーズがさまざまな呼び径に対応できるよう製品ラインアップを拡充する。民間向けでは工場などでもエスゲートシリーズの需要があるほか、免震構造ビルの配管用の継ぎ手の需要もある。伸ばす余地はあると考えている」

老朽化対応など需要増に期待

「はかる」技術で、社会を豊かに繋いでいく。

野菜、果物、米、麦などの農産物からガラス、ゴム、化学薬品などの工業分野まで、
多様な技術とノウハウを組み合わせて、総合的にお客様の課題を解決する対応力。
それが私たちの強みです。見渡せば生活の中のあらゆる場面で、
私たちの「はかる」技術が活かされています。



近江度量衡株式会社 〒525-0054 滋賀県草津市東矢倉三丁目11番70号 TEL.077-562-7111 FAX.077-562-7116
https://www.omiscale.co.jp/

レーザーを知る光響独自のレーザー加工機

- 京都ビジネス交流フェア 2026 -
京都発・グローバルニッチ戦略展
2026.2.18 - 2.19 京都パルスプラザ
弊社代表 住村登壇

製品 / 展示会予定はこちらから

レーザー安全管理者に必要なすべてをWEB動画で！
レーザー安全教育セミナー
労働安全衛生法 / JIS C6802:2025 に対応

お申し込みはこちらから

Kokyo 株式会社光響 光・レーザー技術で社会を豊かに
〒612-8429 京都府京都市伏見区竹田西段川原町 131 番
TEL：070-6582-2430 FAX：075-320-1604
https://www.symphotony.com
marketing@symphotony.com

KOSHINHA

数える 作業を自動化

更には計数データを 経営の武器へ

部品、食品、種子、医療品など「数」で数える作業を計数機が自動化します。

株式会社光伸舎
TEL:075-661-3161
https://www.koshinsha.jp/

2026 京滋の有力企業20（トウエンティー）

常に新しい視点で技術創出

近江度量衡社長　小谷 俊彦氏

―農業向けや工業向けの計量システムなどを手がけています。足元の景況感は。

「原材料費や物流費、人件費の上昇など、コスト面の不透明感が続いている。一方、足元では農業分野も工業分野も省人化や自動化、品質の安定化などに向けた投資は回復傾向だ。工業向けについては海外案件の仕事も堅調に推移している。2026年もこの流れが続くのではないかと考えている。また、新規顧客向け試作機の開発にも取り組んでおり、これも期待できる」

―25年は北海道に新たに営業所を設置しました。

「北海道には当社が手がけた規模の大きな選果施設があるほか、相手先ブランドで納めている製品もある。加えて、北海道は工業生産の総生産額が大きいこともあり、裾野を広くして、さまざまな仕事を手がけたいといった狙いもある。将来的には人を増やし、基幹的な拠点にしていきたい」

―今後の成長戦略は。

「常に新しい視点で市場を捉え、新製品や新技術を生み出すことを目指すほか、顧客の要望も迅速に吸い上げて製品開発やサービスに反映させられるようにしていく。また、人材育成にも力を入れる。この一環で人事制度を新しくして、働きがいのある職場にもしていく。中長期的な売り上げや利益を拡大するため、現工場内に点在しているデッドスペースを有効活用して作業効率向上にもつなげていく。環境を整備することで、イノベーションの促進にも取り組んでいきたい」

顧客の要望も迅速に反映

レーザー製品を独自開発

光響社長　住村 和彦氏

―レーザーや光学製品の輸入販売に加え、自社製品の製造販売も手がけています。

「10万点以上を扱う国内最大級のレーザー専門商社だ。メーカーでもあり、世の中にない商品を送り出している。購入やレンタル、サブスクリプション（定額課金）などの幅広い導入形態を用意し、他社と差別化を図っている。自社製品では、さび取り用レーザークリーナーやレーザーマーカー、次世代半導体製造などに使われるフェムト秒（フェムトは1000兆分の1）レーザーが売れ筋だ」

―2023年に東京証券取引所の東京プロマーケットへ上場しました。

「社会的信用力の向上や取引拡大、専門性の高い人材採用などが狙いだったが、効果は大きかった。商社事業では関税政策の影響を受けた。商社事業では関税政策の準備を通じて短期間で管理体制を強化できるため、組織の持続性も高まった」

―インフレや原材料高など事業環境が厳しさを増す中、どのように対策しますか。

「自社製品は戦略的な原材料の確保や、部材見直しを適宜進めている。また、会社全体で生成AI（人工知能）をフル活用している。例えば、製品の使い方を紹介するイラストや図、動画の作成に生成AIを利用しており、コストダウン効果が表れている」

―成長戦略は。

「25年は製品ラインアップ拡充や販路拡大を目的に特殊なレーザーを手がけるメーカーをM&A（合併・買収）した。今後の成長に向け、M&Aをさらに増やしたい。レーザーメーカーや専門商社などに興味を持っている」

生成AIで業務効率化

多様なワーク 正確に計数

光伸舎社長　粉川 尚子氏

―センサーやモーターを扱う商社事業と、計数機などを製造販売する工場自動化（FA）装置事業を2本柱としています。

「商社として創業したが、半導体業界の顧客が多いため、シリコンサイクルによる好不況の荒波に対応しようと計数機に業容を広げた。当社の計数機は食品やファスナーなどの金属部品、コネクターなどの樹脂部品、種子など、さまざまなワーク（対象物）を正確に計数できる。2本柱の事業展開と、幅広い顧客業界により、景気変動に強い点が当社の強みだ」

―足元の状況は。

「2025年3月期は商社事業、FA事業ともに売り上げが伸びたが、両事業とも米国の関税政策の影響を受けた。商社事業では関税政策の先行きを懸念した顧客から、前倒しで部品を納入してほしいとの要請があり、25年4月以降は引き合いが落ち着いた。一方、FA事業では顧客が設備投資をしたくても様子見する動きが多かった。踊り場が続いた26年3月期だが、24年3月期と同水準の業績で着地できる見通しだ」

―成長戦略は。

「コロナ禍以降、商社事業で扱う部品は、メーカーからの納入リードタイムが長期化している。当社顧客の需要を正確に予測し、適性数量を発注・在庫することの重要性が増しているため、22年にデータベースを独自に構築した。これにより、需要予測が外れた理由などを振り返りやすくなった。FA事業では、計数の前後工程で使う装置の開発を進めている」

需要予測精度を改善